+博論書式 3(論博書式 3)

2023 年 12 月 22 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分　　野	理学療法学分野
学籍番号	21S3018	院生氏名	佐藤　南
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論　文　題　目	Grip strength as a predictor for home discharge in convalescent rehabilitation patients (邦題：回復期リハビリテーション患者における 自宅退院の予測因子としての握力)		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

1)　主論文について

簡便かつ安全で短時間に測定が行える握力は、その低下が死亡、転倒、骨折、日常生活活動の低下など、さまざまな転帰との関連が示されている。本研究では、回復期リハビリテーション病棟に入院した患者の握力が、疾患を問わず退院先の予測因子として有用であると仮説を立案して解析した。対象は回復期リハビリテーション病棟に入院した患者 174 名（男性 77 名、年齢 72.4 ± 12.4 歳、女性 97 名、年齢 80.1 ± 10.1 歳、平均 ± 標準偏差）である。

自宅退院の可否を従属変数とし、年齢と性別を調整変数として投入した二項ロジスティック回帰分析の結果、握力と退院時 mFIM が自宅退院の予測因子として抽出された。ROC 解析から、握力の AUC は 0.807、感度は 0.774、特異度は 0.750、カットオフ値は 15.2kg であることを明らかにした。

本研究プロトコルは、本学倫理審査委員会の承認を受け（承認番号：21-Io-13）、参加者（またはその家族）からは、署名入りの研究協力の同意を得ており、倫理的問題を含めてその遂行方法に問題はなく、論証の進め方も適切であるものと判断された。

本研究の新規性は、握力は簡便な指標で、疾患を問わず退院先の予測因子として有用性を示した点にある。場所を選ばず容易に測定が可能で、臨床性に富む研究成果となっており、高く評価することができる。

本研究は以下に掲載された既発表論文の内容である。

Sato M, Ishizaka M, Endo Y. Grip strength as a predictor for home discharge in convalescent rehabilitation patients. J Phys Ther Sci. 2023: 35; 747-750.

なお、副論文の内容についても、問題はみられなかった。

2)　口頭試問について

2023 年 12 月 5 日(火)に審査会を開催した。研究の新規性や意義、全国的な回復期リハビリテーション病棟入院患者との比較などに関する事前の質問事項への対応も含めたプレゼンテーションが展開された。プレゼンテーション後の口頭試問においては各審査員から複数の質問が出されたが、いずれに対しても適切に応答した。博士論文の要旨の一部修正が求められ、指定された期日内に適切に修正がなされた。

3)　合否

以上の結果から、審査会の審査員全員が、本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　久保　晃 副　査　　熊谷　たまき 副　査　　平野 大輔